

# THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

## デイリー・ジーザス・ニュース #350

天国におけるイエスの永遠の奉仕

初代教会における復活したイエスの継続した言葉と働き

イエスの12回目の復活の出現：ダマスコへの道のパウロへ

コリント第一 15:8-9; 使徒行伝 9:1-9, 26:14-18

=====

の弟子たちに対する脅迫と殺害の息をひきとめませんでした。彼は大祭司のもとへ行き、2 ダマスコの諸会堂への手紙を彼に求めました。もしそこで、この道に属する信者たちを男女を問わず探し出したら、彼らを永久に捕らえてエルサレムへ連れて行こうとしていたのです。

3 旅を続け、ダマスコに近づいたとき、突然、天から明るい光が彼の周りを照らした。4 彼が地面に倒れたとき、声が彼にこう言うのを聞いた。

**「サウル、サウル、なぜ私を迫害するのですか？」**

5 「主よ、あなたはどなたですか。」サウルは尋ねた。

**「私はあなたが迫害しているイエスである。」**

**(使徒行伝 26:16-18) 「わたしはあなたに命じる。立ち上がれ。わたしがあなたに自分を現したのは、あなたをわたしの僕とし、あなたがわたしについて見たこと、そしてこれから見るであろうことの証人とするためである。17 わたしはあなたを、あなたの同胞と異邦人から救い出す。」**

**わたし自身があなたを彼らのところに遣わすのです。18 それは、彼らの目を開いて、彼らを暗黒から光へ、サタンの力から神へと立ち返らせるためです。こうして彼らは、わたしを信じる信仰によって、わたしに永久に仕えている者たちのひとりとして、罪の完全な赦しと永遠の相続財産を受けるようになるためです。 「**

**6 「今、私はあなたに命じて町に入りなさい。そうすれば、あなたたちがなすべきことが告げられるだろう。」**

7 サウルと一緒に旅していた男たちは、音は聞こえていたものの、誰にも会わなかったので、何も言えずにそこに立っていた。

8 サウロは地面から起き上がりましたが、目を開けても何も見えませんでした。そこで人々は彼の手を取ってダマスコに連れて行きました。9 彼は三日間、目が見えず、何も食わず、何も飲みませんでした。

#### パウロの証言：コリント第一12章8-9節

「最後に、彼は異形の生まれの人のように、私にも現れました。私は使徒の最後の者であり、使徒と呼ばれるに値しない者です。神の教会を迫害したからです。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ダマスカス近郊、エルサレムからの道沿い
タイムライン	イエスの昇天から6年後
イエスの生涯の文脈	第9段階：イエスの復活と永遠の宣教
	イエスの永遠の奉仕
	初代教会における復活したイエスの継続した言葉と働き
タイトル：	イエスの12回目の復活の出現：ダマスコへの道のパウロへ

今日の朗読は、イエスの昇天によってもたらされたイエスの宣教活動における大きな変化と、それが私たちにもたらす変化に焦点を当てています。

パウロがコリント人への第一の手紙15章1-11節で、復活の主要な男性証人の公式リストを作成したことを見ました。これには、ペテロ（4番）、十二使徒（6番）、500人の兄弟たちへの同時出現（8番）、ヤコブ（9番）、そしてすべての使徒への出現（10番、11番）が含まれています。これ

らはすべて、イエスの復活後の40日間の宣教活動の間に起こりました。そして、パウロ自身もこの証人リストに含まれています。

しかし、イエスがパウロ（当時はサウロと呼ばれていました）に現れたのは、彼の昇天から6年後のことでした。言い換えれば、昇天前の40日間に何度も現れた同じイエスが、永遠の天の宣教活動を始められた6年後、同じように現れたのです。だからこそ、アナニアはサウロにこう言ったのです。

「兄弟サウロよ、主イエスは、道であなたに現れました...」アナニアはここで「あなたに現れた」と訳されている「見る」という言葉を使っています。パウロは、イエスの復活から昇天までの40日間に他の使徒たちが見たのと同じように、復活したイエスを見ました。したがって、これは福音書に記されているイエスの復活の12回目の出現です。

これまでのデイリー・ジーザス・ニュースの投稿で繰り返し述べてきたように、イエスの昇天はイエスを私たちから遠ざけたわけではありません。聖霊の働きを通して、目に見えない状態でイエスが私たちと共にいることを霊的なものにしました。しかし、昇天したイエスは今もなお、地上で目に見える形で姿を現す力をお持ちです。

私たちの知る限り、これは2000年間で一度だけ、特別な理由から使徒パウロに起こった出来事です。しかし、重要なのは、イエスが昇天されたことで、肉体を持って目に見える存在であるのと同じように、目に見えない存在として私たちと共に完全に生きておられるということです。パウロは、イエスが天から自分に現れたことを、地上での最後の40日間に現れた主の出現と同じカテゴリーに含めたほどです。

だからこそ、私たちはデイリー・ジーザス・ニュースに、イエスの昇天後の生涯と宣教に関する聖書の証言の残り、つまり15箇所の朗読を掲載するのです。ペンテコステ以降のイエス信者は、全世界の教会の信徒の99.9999999999%を占め、パウロやルカと同じように、昇天したイエスと関わっています。イエスは、40ヶ月にわたる宣教活動の間、肉と血の体を持っていた時と同じように、今もなおこの世で生き、活動しておられます。昇天以来、この世ではただ姿が見えなくなっているだけです。イエスの永遠の命の最終段階を構成する18箇所のデイリー・ジーザス・ニュースの朗読は、私たちが信じ、そして私たちの内に生きているイエスについて、多くのことを教えてください。

これはまた、四福音書の内容を含むイエスの生涯を聖書的に学ぶことと、昇天した主との関係とのつながりを浮き彫りにしています。主は当時も今も、同じイエスなのです。

イエスがサウロに最初に語った言葉は、この点を強調していました。 **「サウロ、サウロ、なぜ私を迫害し続けるのですか？」** サウロはキリスト教徒を迫害していました。サウロが気づいていなかったのは、キリスト教徒たちは、目に見えない、昇天されたイエスと一体になっていたということです。サウロがキリスト教徒に触れるとき、それは実際にはイエスの体に触れていたのです。サウロはイエスを直接迫害していました。なぜなら、イエスは目に見えない形ですべての弟子たちと一体となり、天で私たちの頭として生きておられたからです。パウロが新約聖書の著者であり、教会をキリストの「体」として多く語ったのも不思議ではありません。

この箇所から、イエスがパウロとアナニアについてすべてを完全に知っておられたことも分かります。主が霊的な現実の秩序に昇られたという事実は、主が地上から遠く離れておられたことを意味するものではありませんでした。主はアナニアにパウロの居場所を正確に告げ、パウロが何をしているか（祈りと断食）を告げました。そして、使徒パウロを待ち受けるあらゆる苦しみを含め、天から地上のパウロを通して何を成し遂げようとしているのかを正確にご存じでした。イエスはパウロの失明を癒し、聖霊で満たすことをご存知でした。

イエスは、何が起きているのかすべてを知っておられました。なぜなら、目に見えない形でそのすべてに関わっていたからです。サウロはそれが真実だとは全く知りませんでした。アナニアでさえ、イエスが年長の信者に教会の最大の迫害者のところへ直行するように命じたとき、イエスがすべての事実を把握していたとは確信していませんでした。

赤い文字で書かれた新約聖書をお持ちの方は、使徒行伝、書簡、そして黙示録に赤い部分があることに気づくでしょう。これらは、DJNの残りの朗読で取り上げる部分です。これらはイエスの生涯と言葉の重要な部分であり、今日私たちが関わっている主を示しています。

応用：

ヤコブの改宗や礼拝日が土曜日から日曜日に変更されたことと同様に、教会の最大の迫害者であったサウロが歴史上最も多作なイエスの使徒、そして僕へと完全に変わったことは、イエスの復活のもう一つの強力な歴史的証拠です。

イエスは、パウロが改宗した後、あなたと一つになったように、昇天においてもあなたと一つです。イエスは、パウロのために立てられたように、あなたの人生と奉仕のためにも完璧な計画を用意しておられます。その計画には苦しみと偉大な栄光が伴います。その栄光は苦しみをはるかに超えるものです。なぜなら、それは神とあなたにとって永遠の栄光となるからです。

あなたは今日、イエスの計画に再び従うつもりですか？

どのようにイエスに頼って、新たな、より大きな方法であなたを満たし、強めますか？